

# 中施策評価書

作成日 令和元年 11月 18日

中施策事業名	消費者相談事業	部課名	経済建設部・産業支援課
		作成者	秋永亘正
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができています		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	サービスや支援を充実し、負担を軽減する		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	消費生活相談窓口の解説や対処方法が周知されていて、消費者の安全が確保されている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消費者団体</li> <li>・ 消費者相談</li> <li>・ 消費者問題</li> <li>・ 消費生活講座</li> </ul>		

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
消費生活相談件数 (単年度)	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	150	160	165	170	175	200
	実績値	167	202				
単位	件						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		7,882千円	3,057千円		
a	事業費合計	6,713千円	3,057千円	3,181千円	
	正規職員	人数	0.2人	0人	
		b金額	1,169千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		1,169千円	0千円		
② 補助金等(収入)		6,207千円	1,613千円	1,565千円	
③ コスト(①-②)		1,675千円	1,444千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		24円	21円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	消費者を保護・支援する事業は、健全な消費生活を維持するために必要であり、29年度に消費生活センターを開設し、週4日の開設により相談を受け付けているところである。周知等を強化したことで、一定の成果があり、相談件数も伸びてきているので、今後も継続していく。
-----------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	窓口の開設日及び相談受付時間の啓発が進み定着しつつある。相談件数も増加しているため、週4日を継続して、周知啓発活動を行っていく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	高齢者・若者の消費生活を守るため、センター運営を維持しながら出前講座等を実施しながらトラブルを未然に防ぐ体制を整える。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 11月 18日

中施策事業名	豊明勤労会館事業	部課名	経済建設部・産業支援課
		作成者	秋永亘正
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができる		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる		
④中施策事業の対象	会館利用者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	貸館業務を継続し、地域コミュニティ施設として会館利用者が満足している。		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 勤労会館の管理・運営		

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
貸館稼働率	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	52	53	54	55	56	56
	実績値	48.2	46.4				
単位	%						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		18,123千円	13,024千円		
a	事業費合計	12,570千円	13,024千円	19,889千円	
	正規職員	人数	0.95人	0人	
		b 金額	5,553千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	2人	0人	
		金額	4,024千円	0千円	
人件費合計		9,577千円	0千円		
② 補助金等(収入)		3,325千円	3,398千円	3,327千円	
③ コスト(①-②)		14,798千円	9,626千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		215円	140円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	貸室の競合も発生しているため、全体の稼働率は目標に達していない。 平成30年度は、以前から要望のあったトイレ改修による利便性向上を図った。 また、建築基準法に基づく定期点検を実施し、施設の現状を確認したうえで、今後の改修計画に生かしていく。
-----------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	利用者どうして調整を図ることによりできるだけ競合を避け、利用率の向上を図る。 建築基準法に基づく定期点検の結果により、修繕や改修等の予算化を検討する。また、以前から照度不足を指摘されてきた多目的ホールの照明をLED化することにより、利便性向上を図る。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	市WEBサイトで施設案内等をPRし、稼働率の向上を目指すとともに、開設から相当の年数が経過しているため、利用者の安全と利便性を最優先した中で、改修等の維持管理を行う。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	トイレ改修(洋式化)し、環境を整えた。 利用者に対しては、貸館の空き状況を把握してもらえよう、施設予約システムの利用を促した。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	継続的に市WEBサイトにて施設の紹介をしている。	

# 中施策評価書

作成日 令和元年 11月 18日

中施策事業名	ふるさと豊明応援寄附推進事業	部課名	経済建設部・産業支援課
		作成者	秋 永 亘 正

①めざすまちの姿	24 税収が確保され、持続可能な財政運営となっている
②大施策	収入を確保し、持続可能な財政運営を行う
③中施策	税収を増やす等、収入を確保する
④中施策事業の対象	全国納税者
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	ふるさと納税を行うことにより、豊明市の行政に貢献できていると感じ、またお礼の品を賞味や体験することにより、豊明市の魅力を感じている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと納税の発送・受付</li> <li>・ふるさと納税の拡大・啓発事業</li> </ul>

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
ふるさと豊明応援寄附額(単年度)	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	33,000,000	36,000,000	39,000,000	42,000,000	42,000,000	30,000,000
	実績値	21,375,702	22,599,000				
単位	円						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額		予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		13,561千円	11,381千円		
人件費	a 事業費合計	9,761千円	11,381千円	12,628千円	
	正規職員	人数	0.65人	0人	
		b 金額	3,800千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	1人	0人	
		金額	649千円	0千円	
人件費合計		4,449千円	0千円		
② 補助金等(収入)		0千円	0千円	0千円	
③ コスト(①-②)		13,561千円	11,381千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		197円	165円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	あまり貢献できなかった	×	
	重点をおく指標は妥当でしたか	指標自体を見直す必要がある	×	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	大きな改善が必要	×	C
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より遅れている	×	C

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	新しい返礼品が加わり、その返礼品に関して、多くのメディア等で紹介されたこともあって、去年より寄附金額を増やすことができた。ただし、総務省からの通知により事業経費が制限されるため、指標も下方修正する。
-----------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	昨年度に郵便局の「みまもりサービス」シルバー人材センターの「お墓のみまもりサービス」など、役務を提供する返礼として開始した。今後も拡充も含め、地域資源の活用を行い魅力的な返礼品を増やす。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	総務省より経費は、寄附額の50%以下となるように基準が定められたので、事業の効率化を図る。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 11月 18日

中施策事業名	観光活性化事業	部課名	経済建設部・産業支援課
		作成者	秋 永 亘 正

①めざすまちの姿	31 豊明市に魅力があふれ、「通過するまち」から、「足を運んでいただけるまち」になっている
②大施策	とよあけの魅力を高め、訪れる人を増やす
③中施策	「行きたい」場所をつくる
④中施策事業の対象	市民及び市外在住者
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	史跡観光やイベントへの来場者が増加し、市全体が賑やかに感じられる 市内観光史跡に興味をもち、知識を深めることにより郷土愛が醸成している
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光行政</li> <li>・観光施設整備</li> <li>・地方創生事業（観光まちづくり）</li> <li>・地方創生事業（ブランディング）</li> </ul>

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
ボランティアガイドによる来客ガイド数（単年度）	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	19,000	20,000	21,000	22,000	22,000	22,000
	実績値	17,155	12,056				
単位	人						
地域学校向ボランティアガイド回数（単年度）	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	1	2	2	3	3	3
	実績値	0	0				
単位	回						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		32,553千円	15,760千円		
a	事業費合計	21,739千円	15,760千円	13,353千円	
	正規職員	人数	1.85人	0人	
		b金額	10,814千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		10,814千円	0千円		
② 補助金等(収入)		2,700千円	0千円	0千円	
③ コスト(①-②)		29,853千円	15,760千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		434円	229円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	ガイドボランティアによるガイド数は、長期の天候悪化が一因となって、減少となった。桜まつりは、三崎水辺公園のライトアップの廃止に伴い桜WEBサイトを開設し、市内全域にある桜をPRした。また桶狭間古戦場まつりにおいては、市内外のショッピングモール等にPRブースを出展し、イベントを実施した。
-----------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	歴史上の史跡に訪れる人が増加するように、市内外へのPRを積極的に展開する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	ガイドボランティアの人数維持のため、今後も募集啓発活動を図っていく。また、引き続き豊明市内の観光資源の発掘に努力していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	ガイドボランティアによる出前講座等に派遣できるように検討した。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	ガイドのできる人を維持するために新規募集等を行った結果、令和元年度向けに新規加入者を獲得することができた。	



# 中施策評価書

作成日 令和元年 6月 18日

中施策事業名	商工業振興補助事業	部課名	経済建設部・産業支援課
		作成者	秋永亘正

①めざすまちの姿	32 市内に遊ぶ場所や働く場所があり、豊明市が潤っている
②大施策	地域の経済活動が盛んなまちをつくる
③中施策	産業の活性化を図る
④中施策事業の対象	商工会、商工事業者、創業予定者
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市の安定した雇用対策や商工会の運営、新規創業する事業者の増加で商工業が発展している
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商工会等への指導及び育成</li> <li>・商工会等への補助金</li> <li>・空き店舗活用事業補助金</li> <li>・社宅整備費補助金</li> <li>・店舗等水まわり改修工事費補助金</li> </ul>

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
豊明市商工会会員数のうち「建設・製造・卸売小売・飲食業」の計	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	790	790	790	790	790	800
	実績値	748	703				
単位	名						
空き店舗及び社宅整備、水まわり補助の実績	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	7	7	10	10	10	10
	実績値	7	5				
単位	件						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		22,108千円	21,820千円		
人件費	a 事業費合計	21,815千円	21,820千円	21,870千円	
	正規職員	人数	0.05 人	0 人	
		b 金額	293千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		293千円	0千円		
② 補助金等(収入)		0千円	0千円	0千円	
③ コスト(①-②)		22,108千円	21,820千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		321 円	317 円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	指標の内容を見直す必要がある	△	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より遅れている	×	C

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	商工業の振興を側面から支援するため、事業者に対しさまざまな補助を実施している。空き店舗補助は2年間該当がないため、制度の見直しが必要である。水まわり改修工事費補助金も1件の実績であったが、令和元年度で制度が終了するため、有効に活用してもらうよう、商工会とも連携してさらにPRする。
-----------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	補助事業のため、補助対象者である商工会と事業期間内での情報共有のうえ、パンフレット等を活用し、引き続き周知を行うことにより、対象事業をより有効的に進めることとする。水まわり補助金は、令和元年度で終了するため、有効に活用してもらうよう積極的にPRする。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	企業支援の施策は、主に商工会を通じてPRするため、商工会への入会メリット等の紹介も併せて企業訪問数を可能な限り増やし、既存の補助制度の活用と、商工会への入会を引き続き促していく。この2年間該当がなかった空き店舗活用補助金は、制度そのものの見直しを検討していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	補助対象者である商工会と情報を共有し、定期便等でPRした。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	企業訪問やパンフレットの送付により、補助制度の活用と商工会への入会を促した。	

# 中施策評価書

作成日 令和元年 6月 18日

中施策事業名	商工業の育成振興事業	部課名	経済建設部・産業支援課
		作成者	秋永亘正

①めざすまちの姿	32 市内に遊ぶ場所や働く場所があり、豊明市が潤っている
②大施策	地域の経済活動が盛んなまちをつくる
③中施策	産業の活性化を図る
④中施策事業の対象	市民、市外在住者
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	商工業者に活気があり、経済活動が活発化して、市内での消費が拡大している
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商工業振興資金・信用保証料助成</li> <li>・ 商店街振興</li> <li>・ 地方創生事業（花マルシェ・前後駅前活性化）</li> <li>・ 小規模企業振興施策</li> </ul>

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
地域ブランド関連 商品数（延べ）	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	6	8	10	10	15	15
	実績値	10	12				
単位	個						
地域ブランド関連 イベント開催回数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	5	6	7	8	10	12
	実績値	11	9				
単位	回						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額		決算額		予算額		
		平成29年度		平成30年度		平成31年度		
① 総事業費(a+b)		124,892千円		95,844千円				
人件費	a 事業費合計	112,909千円		95,844千円		86,211千円		
	正規職員	人数	2.05 人		0 人			
		b 金額	11,983千円		0千円			
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人		0 人			
		金額	0千円		0千円			
人件費合計		11,983千円		0千円				
② 補助金等（収入）		104,000千円		83,000千円		72,000千円		
③ コスト（①－②）		20,892千円		12,844千円				
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		304 円		187 円				

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	融資を受けた商工業者へは、信用保証料の助成や利子補給により支援を行った。前後駅前活性化事業は3年が経過し、定期的な開催により市民の認知度も上がった。「とよあけ花マルシェプロジェクト」「前後駅前活性化事業」は、市民への認知度があがっており、駅前の持つポテンシャルの認識にもつながった。
-----------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	前後駅活性化事業も認知度が上がっており、事業を継続していくが、今後は企業や大学と連携もしながらイベント内容やPR方法を工夫することとする。とよあけ花マルシェプロジェクトは、シビックプライドの醸成を目指し、市民中心の組織を育成し、市民主体で活動できる組織作りも目指す。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	それぞれの拠点で始まった事業であるが、地域の拡大やイベントの内容の工夫等、さらに展開できるよう、新たに企業や大学、市民連携も検討し将来像もイメージしつつ進めていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	とよあけ花マルシェプロジェクト、駅前活性化事業ともに、定期的な開催とPRにより市民の認知度が上がってきており、定着してきた。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	市内のみではなく、市外への情報発信も展開した。	

# 中施策評価書

作成日 令和元年 5月 28日

中施策事業名	企業留置事業（補助金交付事務）	部課名	経済建設部・産業支援課
		作成者	秋永亘正

①めざすまちの姿	32 市内に遊ぶ場所や働く場所があり、豊明市が潤っている
②大施策	地域の経済活動が盛んなまちをつくる
③中施策	産業の活性化を図る
④中施策事業の対象	市内の企業
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市との信頼関係が構築され、企業が引き続き豊明市を拠点として活動している。
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・企業再投資促進補助金

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況								
補助事業認定申請 累計件数		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	2	3	4	5	6	6
		実績値	2	2				
単位	件							
		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	0	0	0	0	0	0
		実績値	0	0				
単位								

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成29年度	平成30年度	平成31年度
① 総事業費(a+b)			117千円	105,810千円	
人件費	a 事業費合計		0千円	105,810千円	0千円
	正規職員	人数	0.02人	0人	
		b 金額	117千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		117千円	0千円		
② 補助金等(収入)			0千円	50,670千円	0千円
③ コスト(①-②)			117千円	55,140千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			2円	801円	

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	平成29年度に認定した2件に対して、平成30年度に予算措置のうえ再投資補助金を交付した。 平成30年度中に新たな再投資の申請はなかったが、数件の問合せがあり、制度の利用を促した。
-----------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	市内企業を訪問し、現状や今後の展望を聞き取った中で、活用いただける支援策について引き続きPRを行い、留置を図る。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	支援制度のPRにより、補助金申請件数の増加が予想されるため、予算を確保するとともに企業にとってより効果的な施策を研究していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	市内企業へのPRを行ったことにより、数件の問合せがあった。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	引き続きPRを行うとともに、問い合わせや相談に対応していく。	

# 中施策評価書

作成日 令和元年 6月 17日

中施策事業名	企業留置事業（企業訪問事務）	部課名	経済建設部・産業支援課
		作成者	秋永亘正

①めざすまちの姿	32 市内に遊ぶ場所や働く場所があり、豊明市が潤っている
②大施策	地域の経済活動が盛んなまちをつくる
③中施策	産業の活性化を図る
④中施策事業の対象	市内の企業
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市との信頼関係が構築され、企業が引き続き豊明市を拠点として活動している。
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・地方創生事業（小規模企業実態調査）

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況								
企業訪問累計件数		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	40	70	100	130	130	130
		実績値	41	58				
単位	件							
事業実施年度		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	0	0	0	0	0	0
		実績値	0	0				
単位								

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成29年度	平成30年度	平成31年度
① 総事業費(a+b)			459千円	168千円	
人件費	a 事業費合計		166千円	168千円	171千円
	正規職員	人数	0.05 人	0 人	
		b 金額	293千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		293千円	0千円		
② 補助金等（収入）			0千円	0千円	0千円
③ コスト（①－②）			459千円	168千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			7 円	2 円	

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	平成30年度は、開発を検討している柿ノ木地区工業用地への誘致を優先させるため、必要に応じて市街地整備課とともに積極的に企業訪問を行った。従来と同様の市内企業への訪問は17社であったが、うち1社は、愛知県産業立地通商課と合同で訪問し、県の支援制度についても紹介することができた。
-----------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	将来に向けての移転、投資を計画している企業には、工業用地や補助制度を積極的に紹介していく。また、企業からの要望等を聞き取り、市内で事業を継続してもらえるよう、行政として可能な限り支援する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	引き続き訪問する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	各補助制度についての問合せがあり、個別に対応した。 将来的な移転や投資の計画については、計画している工業用地の紹介を行った。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	引き続き実施する。	



# 中施策評価書

作成日 令和元年 5月 30日

中施策事業名	企業誘致事業	部課名	経済建設部・産業支援課
		作成者	秋永亘正

①めざすまちの姿	32 市内に遊ぶ場所や働く場所があり、豊明市が潤っている
②大施策	地域の経済活動が盛んなまちをつくる
③中施策	産業の活性化を図る
④中施策事業の対象	製造業及び新規有望分野の企業
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	産業団地への企業誘致
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業立地（企業誘致）</li> <li>・ 企業立地促進法</li> <li>・ 産業立地推進協議会</li> </ul>

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
企業の立地面積（ 意向確認分）	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	6	12	12	12	12
	実績値	3	25				
単位	ha						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額		決算額		予算額		
		平成29年度		平成30年度		平成31年度		
① 総事業費(a+b)		3,392千円		1,447千円				
人件費	a 事業費合計	469千円		1,447千円		607千円		
	正規職員	人数	0.5 人		0 人			
		b 金額	2,923千円		0千円			
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人		0 人			
		金額	0千円		0千円			
人件費合計		2,923千円		0千円				
② 補助金等(収入)		0千円		0千円		0千円		
③ コスト(①-②)		3,392千円		1,447千円				
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		49 円		21 円				

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	平成29年度より誘致を始め、30年度には企業立地意向調査を実施した。また、中部経済連合会を通じてPRを行い、より関心の高い企業を優先して誘致活動を行った結果、開発予定面積の2倍の面積にあたる希望を事前エントリーとして受け付けた。
-----------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	引き続き誘致活動を進めるが、すでに開発予定面積の2倍を超える希望があるため、希望を受け付けた企業を優先に進捗状況の報告や協議を進めていく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	本エントリーに向けて、より詳細な協議や意向確認を行う。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 6月 18日

中施策事業名	雇用就労対策事業	部課名	経済建設部・産業支援課
		作成者	秋永亘正
①めざすまちの姿	39 若い人たちが地元で働ける		
②大施策	若い人たちの地元での就労を促進する		
③中施策	若い人たちが働きやすい労働環境づくりを支援する		
④中施策事業の対象	市内事業者、求職者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市内企業の魅力が発信され、市内企業への就職が促進されている。		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労務相談</li> <li>・雇用対策</li> </ul>		

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
就職活動支援イベント等の情報発信数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	6	8	10	12	12	12
	実績値	7	11				
単位	回						
企業合同説明会参加企業所数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	18	20	21	22	23	24
	実績値	18	11				
単位	社						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額		決算額	予算額
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		178千円	601千円		
人件費	a 事業費合計	61千円	601千円		2,261千円
	正規職員	人数	0.02人	0人	
		b 金額	117千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		117千円	0千円		
② 補助金等(収入)		0千円	0千円		0千円
③ コスト(①-②)		178千円	601千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		3円	9円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	雇用就労対策として、近隣自治体との合同企業説明会を開催することで、就労希望者と雇用者が接する機会を提供することができた。さらに、なごや若者サポートステーションの協力により、就労相談を実施した。新規事業として人材定着支援事業を実施するため、雇用対策協議会に補助金を交付した。
-----------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	広報やWEBサイト等でPRを行い、周知を図る。近隣自治体との合同企業説明会は、人材確保の機会を拡大する。引き続きなごや若者サポートステーションの協力により、就労相談を行う。人材定着支援事業を継続して実施できるよう、地方創生推進交付金の認定を受け、雇用対策協議会へ補助金を交付する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	特に中小企業では、働き手の減少が問題となっているため、支援できる事業を検討する。人材定着支援事業を継続して実施できるよう、各企業に参加のPRを行う。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	合同企業説明会については、昨年度から開催時期を再検討のうえ実施し、広報やチラシ、地下鉄主要駅でのポスターにてPRした。 就労相談は、なごや若者サポートステーションの協力により、市役所で月一回実施した。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	特になし	

# 中施策評価書

作成日 令和元年 6月 18日

中施策事業名	創業支援事業	部課名	経済建設部・産業支援課
		作成者	秋永 亘正

①めざすまちの姿	39 若い人たちが地元で働ける
②大施策	若い人たちの地元での就労を促進する
③中施策	若い人たちの働く意欲・能力を高める
④中施策事業の対象	市内在住、在勤、在学者
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市内在住、在勤、在学者が、豊明市内で起業している
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方創生事業（しごと創出）</li> <li>・起業・創業支援</li> </ul>

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
創業実践セミナー の受講者数（延べ）	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	6	9	12	15	18	18
	実績値	3	4				
単位	人						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額		決算額		予算額		
		平成29年度		平成30年度		平成31年度		
① 総事業費(a+b)		877千円		5千円				
人件費	a 事業費合計	0千円		5千円		0千円		
	正規職員	人数	0.15 人	0 人				
		b 金額	877千円		0千円			
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人		0 人			
		金額	0千円		0千円			
人件費合計		877千円		0千円				
② 補助金等(収入)		0千円		0千円		0千円		
③ コスト(①-②)		877千円		5千円				
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		13 円		0 円				

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	あまり貢献できなかった	×	
	重点をおく指標は妥当でしたか	指標の内容を見直す必要がある	△	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	やや改善が必要	△	B
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より遅れている	×	C

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	先行きの不透明さもあり、新たに起業することは現実的に容易ではないため、セミナーへの参加も少なかったと思われる。商工会や近隣自治体との連携にPRも実施しているが、別のPR方法やプログラムの見直しの検討等、現状に合った指標の見直しも検討する必要がある。
-----------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	商工会でのチラシ配布と並行し、市広報やWEBサイトでPRを行う。前年と同様に創業支援セミナー開催前に、図書館での起業や創業に関する本を紹介するための「起業コーナー」を一定期間（1カ月間程度）設ける。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	現在4自治体で連携する中で、参加者を増やせるよう魅力あるPR方法を検討していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		